

御船地区

(熊本県御船町)

- 計画期間 平成22年度～26年度
- 面積 215HA
- 交付対象事業費 2,152百万円
- 町人口 17,798人

ポイント

全国に2箇所しかない恐竜博物館の一つ「御船町恐竜博物館」の移設整備や、旧幼稚園舎の思い出を受け継いだ「子育てふれあい館」、御船町を訪れた方々をもてなす「観光交流センター」、新たな交流拠点となる「ふれあい広場」、かつての御船町の栄華を今もなお伝える“御船蔵屋敷”を活用した「街なかギャラリー」等、本町中心部の骨格であるシンボルロード沿道において、生活利便性向上と、町全体の活性化のけん引役としての集客性向上に向けた各種事業の展開を、町民との協働により実施した。

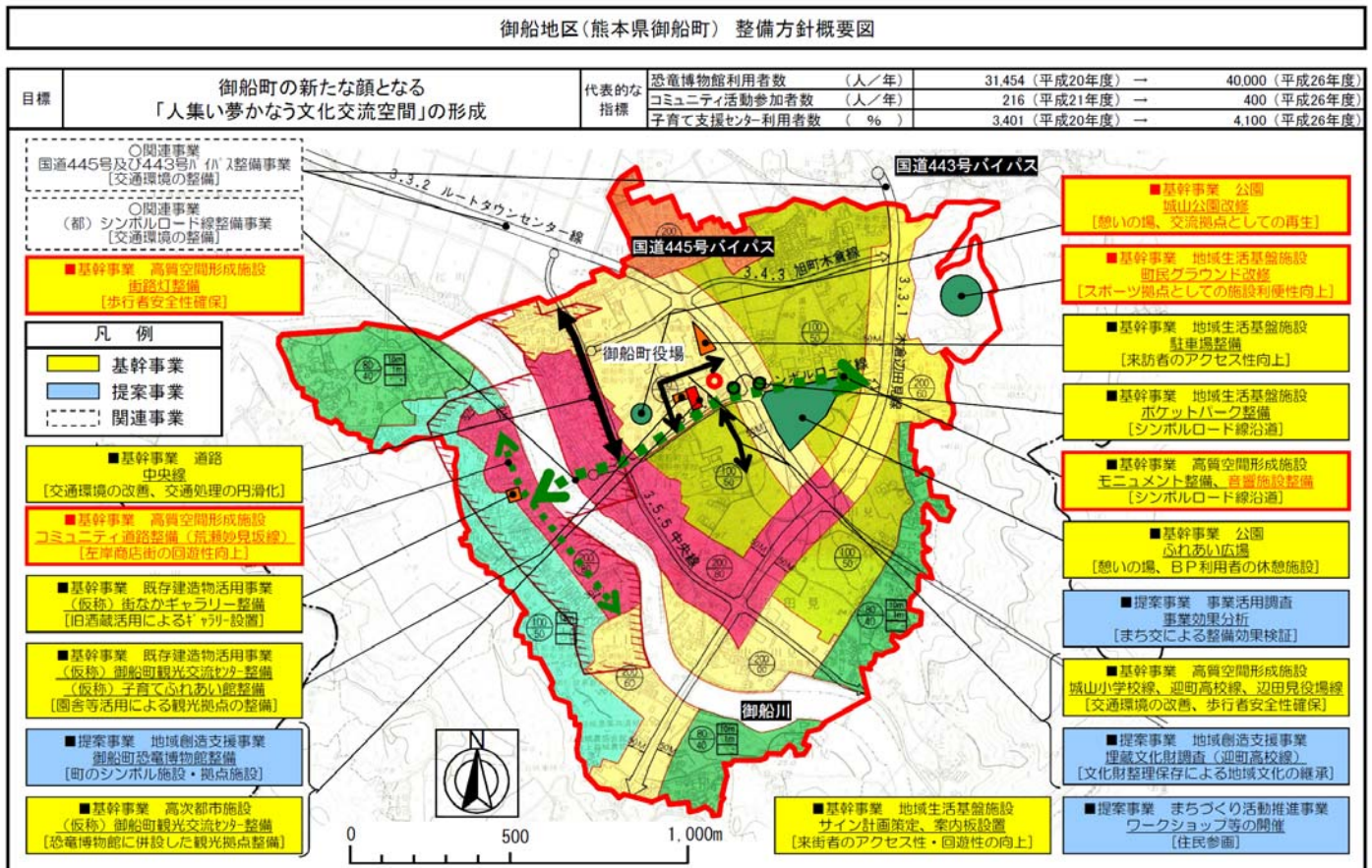
地区概要

シンボルロード沿道を舞台として、本町のシンボルである恐竜博物館移設や、新たな交流拠点としてのふれあい広場整備、歴史的建造物である御船蔵屋敷を活用した街なかギャラリー整備、旧幼稚園舎及び敷地を活用した複合施設(観光交流センター、子育てふれあい館)の整備等、既存ストックの活用も図りつつ、本町の活性化と町民生活の質的向上に向けたシナリオを描いている。

目標、指標→整備方針概要図上部に記載

事業内容

- 基幹事業(1,420.4百万円) → 道路(2線 総延長1,500m)、ふれあい広場(1.5ha)、ポケットパーク(2箇所)、町民グランド(1.8ha)、(仮)御船町観光交流センター(247㎡)、街路灯(71基)他
- 提案事業(779.4百万円) → 恐竜博物館整備事業(1,700㎡)、埋蔵文化財調査、事業効果分析、ワークショップ等



地区の現況と課題

かつては、本町中心を流れる御船川左岸を中心に、まちの生活が営まれていたが、モータリゼーションの進展に伴い、経済や行政の中心が国道の走る右岸側に移り、現在の中心地が形成されている。さらに、近年では国道バイパスが開通し、その沿道への商業施設出店により、更なる市街化の進展が図られている。計画策定時、本地区では国道バイパス整備が進められており、このままでは、単なる通過都市になる恐れがあった。また、御船川左岸の商店街エリアの再生も本町固有の課題であった。さらには、当時においても、町民と行政が共に進める協働によるまちづくりの運営が強く求められており、その実現に向けて、職員、町民の意識を変えていくことが課題であった。

提案事業の特徴

恐竜博物館の新館整備により様々な展示が可能になる等、施設の魅力が格段に向上したとともに、各種PR活動の展開が功を奏し、年間来館者数は、過去最多の約 17 万人にも達し、目標値を大幅に上回った。

まちづくりの効果、持続的取組

- ・博物館では、特別展をはじめ、恐竜をモチーフとしたものづくり教室、参加状況に応じて称号を授与する「化石はかせ認定プログラム」等、趣向を凝らしたイベントにより、来館者数は順調に推移している。
- ・街なかギャラリーでは、作品展示会や季節ごとのイベントを開催し、また、女性に喜ばれるヨガ・エステ教室をはじめ、子供から大人まで参加できる英会話教室等のお客様参加型のイベントを一年を通して行っており、御船川左岸の地域住民や町民の集いの場として活用されている。
- ・ふれあい広場では、連日多くの親子連れや来訪者で賑わっており、地域住民・各種団体によるイベント等も開催されている。また、学生による清掃活動及びボランティアによる公園内の除草・ゴミ拾いなども実施され、町民・行政の協働によるまちづくり活動が展開されている。



町のシンボルとして新しく生まれ変わった
「御船町恐竜博物館」



古民家を改修し、町民のつどいの場として賑わう
「御船街なかギャラリー」



子供達に『恐竜公園』の愛称で親しまれている
「ふれあい広場」



旧御船幼稚園舎を再活用し、多世代間交流の場
として賑わう「御船町子育てふれあい館」